

# 1 災害の特徴を知る

## 1 風水害に関する解説

### ■高梁市内で過去に発生した大きな被害

#### 昭和47年(1972)7月豪雨

降水量 376mm (7月9日~13日、高梁観測所)  
 被害戸数 1600戸以上  
 被害事例：玉川町玉地区で孤立状態、伯備線の線路流出



#### 平成30年(2018)7月豪雨

降水量 338mm (7月5日~7日、高梁観測所)  
 1時間の最大雨量26mm (7月6日22時、高梁観測所)  
 死者(災害関連死含む) 2名、行方不明者1名、重傷者3名  
 被害戸数 600戸以上  
 被害事例：最長12日間にわたって断水、斜面の崩壊や土石流が発生、市内各所で道路の通行規制・通行止が発生



#### 雨の強さと降り方

1時間雨量	10mm以上 20mm未満	20mm以上 30mm未満	30mm以上 50mm未満	50mm以上 80mm未満	80mm以上	
予報用語	やや強い雨	強い雨	激しい雨	非常に激しい雨	猛烈な雨	
雨の様子	雨音で室内にいても話し声が聞き取りにくくなります。	傘をさしていても濡れるような雨です。小さな河川では氾濫の危険があります。	バケツをひっくり返したような雨です。がけ崩れが起こりやすくなります。	滝のように降る雨で、傘は役に立たなくなります。車の運転は危険な状態です。	息苦しくなるような圧迫感があり、恐怖を感じるような雨です。大規模な災害が発生するおそれがあり、厳重な警戒が必要です。	

#### こんなときは注意!

##### ■集中豪雨のとき

わずかな時間に狭い範囲で強い雨が降ると、雨水が排水しきれず、一度に低い土地に溜まります。

##### ■台風のと看

強風による倒木や家屋への被害に加え、強い雨による被害が起こる場合があります。テレビ、ラジオ、インターネット等でこまめに情報を入手しましょう。

#### こんな場所では注意!

##### ■河川に接する低い土地

豪雨時に河川があふれ出した場合、真っ先に浸水する場所です。周辺より低い土地は特に注意しましょう。

##### ■造成地

地盤が不安定なため、豪雨時に地盤が緩んで崩れる危険性があるので注意しましょう。

## ■風水害に対する日頃の備え

雨どいに枯れ葉や砂は詰まっていますか?

非常持出品や非常備蓄品は準備していますか?

マイ・タイムラインは作成しましたか?

雨戸は締まっているでしょうか?

ブロック塀は、崩れないように補強しましょう。

プロパンガスは固定されているでしょうか?

物干し竿や植木鉢は飛ばされないようにしていますか?

自転車も屋内にしまっておかないと飛ばされ、避難の妨げになる場合があります。

## ■浸水深の目安

5.0m以上	建物2階が水没 3階床面が浸水する可能性があります。
3.0~5.0m	建物2階床面が浸水
0.5~3.0m	建物1階床上浸水 氾濫時は0.5mの水深では、大人でも避難が困難となります。
0~0.5m	床下が浸水

**水の流が速いと、浅くても危険です!**